

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

2014 かわさき読書週間 イベント情報

10月26日(日)～11月8日(土)は「かわさき読書週間」です!

「読書のまち・かわさき」では、「かわさき読書の日」(11月第1日曜日)をはさんだ2週間を「かわさき読書週間」とし、図書館や学校などで様々な取り組みを行っています。今年もぜひご参加ください。

川崎図書館 大師分館 田島分館	11月 9日(日)	川崎・大師・田島合同企画「おはなしキャラバン」 紙しばい・パネルシアター・てあそび・うたあそび など	
幸図書館	10月 2日(木)	大人のためのおはなし会 ～耳から楽しむ「昔ばなし」の世界へようこそ～	
	10月29日(水)	10月のおはなし会	
	11月 1日(土)	大人のための朗読会	
	11月12日(水)	おはなしワールド 英語と日本語で絵本の読み聞かせや言葉遊び	
	10月26日(日) 11月 9日(日)	さいわい郷土史講座 幸区の歴史を郷土史家による解説	
	10月31日(金) ～11月 5日(水)	岡本太郎美術館開館15周年記念展示	
日吉分館	10月17日(金)	リユース本・ミニ配布会	
	10月25日(土)	ストーリーテリング秋のおはなし会	
中原図書館	11月 1日(土) ～11月 3日(月・祝)	なかはら子どもとしょかん本の森 絵本の読み聞かせ・絵本展示・ボランティア紹介展示 ほか ※11月 3日(月)は展示のみ。	
高津図書館	10月19日(日)	秋のおたのしみ会 親子で科学の玉手箱	
	10月25日(土) ～11月 3日(月・祝)	高津区の読書活動紹介展示 図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介・ポスター作品展示 ほか	
橘分館	11月 8日(土) ～11月 9日(日)	リユース本の配布・本の展示 等	
	11月 9日(日)	どんぐり広場 紙芝居中心のおはなし会、おすすめ絵本の展示	
宮前図書館	10月17日(金) ～10月22日(水)	みやま読書の日・本とお話の一週間 人形劇・おはなし会・ミニ講演・絵本で知る障がいと病気 学校図書館ボランティアの活動展示 その他 ※10月20日(月)は休館	
多摩図書館	10月 8日(水)	滝田洋二郎講演会	
	10月25日(土) ～11月 3日(月・祝)	図書館で活動しているグループや学校図書館の活動紹介、おすすめ児童書の展示	
	11月 9日(日) 11月15日(土)	多摩区郷土史入門講座	
	11月15日(土)	秋のおはなし会	
麻生図書館	10月24日(金)	大人が楽しむお話の会	
	10月12日(日) ～11月 3日(月・祝)	特集『しんゆり映画祭2014』 映画祭上映作品を中心としたポスター展示や映画祭関連の情報提供 ※10月20日・27日(月)は休館	
柿生分館	10月27日(月) ～11月 9日(日)	読み聞かせボランティアによるおはなし会、絵本の展示とリスト配布 ほか	
	10月29日(水)	柿生分館おりがみひろば	
	11月 2日(日) 11月 3日(月・祝)	一日図書館員	
教育委員会 指導課	11月 2日(日)	第12回かわさき読書の日のつどい 童話作家・絵本作家の角野栄子氏による講演会「ものがたりの力」 読書活動優秀 団体表彰式、児童生徒の入賞作品(読書ポスター・標語など)の表彰・作品展示	

予告なしに変更する場合があります。
申し込み方法・会場など詳しくは図書館ホームページや各図書館(「読書の日のつどい」は教育委員会指導課)へお問い合わせください。

第24回



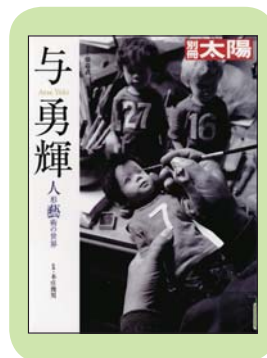
このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。今回は、川崎でこども時代を過ごした川崎ゆかりの人物にスポットをあてて紹介します。

A：『与勇輝 一人形藝術の世界―』

本庄俊男／監修 平凡社 2011

与勇輝氏の100作品253体が紹介されています。与氏の少年時代や創作人形との出会い、人形作家として生きる決意など、生い立ちを作品と回想でたどります。家族をモデルにした人形も収録されています。

★中原図書館では、昨年度の新館オープン時に市民の方から与氏の作品をご寄贈いただきました。中原図書館入り口の吹き抜けスペースにて展示しています。与氏の作品を間近にご覧いただけます。



A

B：『坂本九 一上を向いて歩こう―』

坂本 九／著 マナセプロダクション／編 日本図書センター 2001

本名は「九」と書いて「ひさし」。昭和16年に川崎市南町で生まれ、昭和60年の日本航空ジャンボ機の御巣鷹山墜落事故により亡くなるまでのお話です。坂本九氏がペンを執った文章を中心に構成され、坂本氏が生きた道がわかるよう文章の前後に補筆されています。

C：『六・八・九の九 坂本九ものがたり―』

永六輔／著 中央公論社 1986

坂本氏が生まれ幼少期を過ごした川崎の様子が、様々なエピソードを通して感じられます。坂本氏の母校である川崎小学校時代のお話なども多く書かれており、小学校の創立記念誌に寄せた作文も収録されています。

坂本氏の作文が掲載された『川崎小学校創立80周年記念誌』（川崎市立川崎小学校／編集 1953）は、川崎市立図書館でも所蔵しています。

★川崎市立図書館では、市内の小中学校で発行された記念誌や副読本なども収集・保存しています。学校や郷土の歴史などが満載です。「へえ〜」という驚きと「そうだったなあ」という懐かしさを感じていただけるのではないのでしょうか。母校の記念誌を図書館で探してみませんか？

D：『玉置宏の昔の話で、ございます』

玉置宏／著 小学館 2004

昭和9年に川崎の米屋に生まれ、“生まれも育ちも川崎”の玉置氏。NHKが第1回アナウンサー試験を実施した年に生まれ、昭和31年に文化放送の男性契約アナウンサー第1号として初めてラジオに登場しました。本書では、ご両親のことや子どもの頃の話に始まり、昭和のスターたちのエピソードが、一度聴いたら忘れられない、あの流れるような名調子のナレーションのように語られています。なんと坂本九氏の実家は玉置氏の米屋の上得意であったなど、川崎つながりの話題も。巻末には「玉置宏の曲紹介ナレーション集」もあります。



E

E：『カワサキ・キッド』

東山紀之／著 朝日新聞出版 2010

『週刊朝日』に連載された「これまでと、これからと」に加筆修正し単行本化したものです。川崎での子ども時代、ジャニー氏との出会い、デビュー、四十代になった自分のことなど、これまでの過去をふり返り、東山氏本人が語ります。最終章「帰る場所」では、幼少時代を過ごしたコリア・タウンや母校など生まれ育った川崎のまちを再訪し、自分の原点と未来を見つめています。収録されている写真では、皆さんの見覚えのある路地や建物、東山氏の背景に見ることができるかも…？



F

F：『オオカミの護符』

小倉美恵子／著 新潮社 2011

翌年に東京オリンピックを控えた昭和38年、宮前区土橋の農家に著者の小倉氏は生まれました。実家の土蔵の前に貼られた「オイヌさま」の護符が、幼いころから気にかかっていた小倉氏は、その正体を探り始めます。加速度的に開発が進んでいき、山は削られ、小径や小川が消え、茅葺屋根の家々も消えていく中でも、代々受け継がれてきた山岳信仰。小倉氏が一人で家庭用ビデオカメラを片手に始めた取材でしたが、次第に仲間ができ、2008年に映画「オオカミの護符」が公開されました。

おめでとうございます！

平成
26
年度

神奈川県図書館協会 功労者表彰の受賞団体を紹介します

去る平成26年4月23日に神奈川県青少年センターにおいて、神奈川県図書館協会功労者の表彰式が開催されました。川崎市内からは、長年にわたり図書館活動を地域から支えてくださった2団体が表彰されましたので紹介します。受賞団体の皆様おめでとうございます。

グループ ひよこ



宮前図書館をはじめとし、市民館、保育園、小学校、保健福祉センター等ではおはなし会を行い、図書館及び地域の子どものための読書普及活動に積極的に取り組んでいます。また、ボランティア自主講座等を企画し、グループ内外の技術の向上、活動の充実を図っています。1986年活動開始。

おはなしたまてばこ



1986年に開催された講座の受講生が中心となり、翌年設立しました。麻生図書館でのおはなし会のほか、区内の小学校などでもストーリーテリングや読み聞かせをしています。勉強会や絵本等の作品研究を行い、研鑽を積むとともに、子どもと本の講座の実施や講師派遣なども行っています。

フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

わが街・川崎のJ1サッカークラブ「川崎フロンターレ」と図書館の合同企画です。
第16回は、小宮山尊信選手が選ぶ1冊を紹介します。



『娼婦の眼』

池波正太郎／著 【講談社】 1981年刊（新装版2014年刊）

講談社「完本池波正太郎大成28」2000年刊

立風書房「池波正太郎短編小説全集10」1981年刊 にも収録されています。

《内容紹介》

昭和30年代を舞台にした現代小説。娼婦たちの、他の誰とも変わりがないのだという職業意識と悲壮感など感じさせない強い誇りをもって生きる姿を描いた連作集です。



KAWASAKI
Frontale



*** 小宮山尊信選手より ***

歴史に興味があり、池波正太郎さんの本に行き着きました。この本は、歴史の裏側みたいな部分が描かれていると思います、怖いもの見たさで手に取りました。実際は登場人物たちの逞しく、したたかに戦後を生きる姿が微笑ましく描かれていて、読む前と本のイメージがガラッと変わったこともあり、お気に入りの1冊になっています。

【DF8 小宮山尊信選手】

運動量と1対1の強さを誇るサイドバック。タイミングのいい攻撃参加からライン際を駆け上がり、ゴール前にラストパスを送る。ここ1、2年は慢性的な膝の痛みで悩まされプレーできない時期が続いたが、今シーズンは不安なくサッカーができる喜びを感じている。歴史が好きで時代背景が戦後ぐらいまでの本を読み、その時代の人たちの生き様などから人生観を学んでいる。



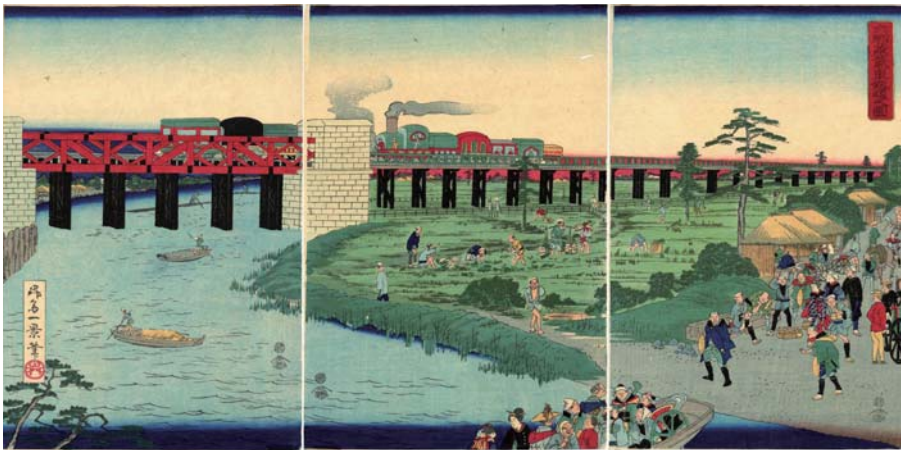
3号に1回のペースで「川崎市内の乗り物・交通機関」をキーワードに様々な話題を取り上げてご紹介してきた「かわさき車窓物語」。今年度は市制90周年を記念して毎号で連載中です！

汽笛一声～♪の新橋駅より古い川崎駅(2)

明治5(1872)年6月5日(旧暦)に開設された川崎駅ですが、開設当時の駅舎は和洋折衷の木造平屋建駅舎二棟と乗降場(プラットフォーム)を備えただけの簡素なものでした。起点である横浜駅と新橋駅が石造瓦屋根二階建の立派な建物で「鉄道館」と呼ばれ観光名所になり、錦絵の題材にも数多く取り上げられ写真記録も多数が現存していることと比べると、その差に愕然とせざるを得ません。品川駅と神奈川駅、開業翌日に開設された鶴見駅の構造も川崎駅と似たようなもので、京浜間の中間に位置していた川崎駅が当初は単線だった

線路のすれ違い駅としての上下線停車機能を持っていたことを除けば、乗降場の形式が異なる程度でした。

鉄道の利便さは早くから人々の間に伝わり各駅の敷地はすぐに手狭になったようで、川崎関係では明治8年に工部卿伊藤博文が太政大臣三條實美あてに敷地の狭さを訴えており、駅に関連する諸施設の建設にも差支えていることがわかります。伊藤工部卿は解決策として川崎駅に隣接する南河原村の民有地買い上げを上請し、内務省との打ち合わせに取り掛かる許可を得た文書が残っています。



「六郷蒸気車鉄道之図」

絵師：昇斎一景
制作年：明治4年8月

工事は明治3年3月に始まり、翌4年の夏頃には川崎・横浜付近で試運転が開始され、秋には品川付近でも走る姿が見られたという。

絵師は現場に赴き鉄道橋は見たものの、車両を見る機会に恵まれなかったようで、サーカス列車の如き描写になっている。

広告事業のご案内

川崎市立図書館では、財源の確保や経費の節減と地域経済の活性化を図るため、広告事業に取り組んでいます。現在は、次の媒体で広告掲載の募集を行なっています。

《募集中の媒体》

- ・ホームページバナー広告
- ・レシート表面広告
(貸出・予約の際に打ち出すレシート)
- ・雑誌カバー広告

詳しくは川崎市立図書館ホームページをご覧ください。http://www.library.city.kawasaki.jp/banner_youkou.html

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橘分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)